

平成 30 年度第 1 回岩手県企業局経営評価委員会 議事録

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ（藤澤企業局長）
- 3 報告事項
 - (1) 平成 29 年度決算概要について
 - (2) 第 5 次中期経営計画の評価方法について
- 4 議 事
 - (1) 平成 29 年度の取組評価について
 - (2) 平成 30 年度の第 1 四半期取組状況について
 - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉 会

出席者名簿

委員長	サレジオ工業高等専門学校 非常勤講師	郷 富夫	
委 員	岩手県立大学総合政策学部 准教授	泉 桂子	
〃	いわて生活協同組合 常務理事	金子 成子	
〃	早稲田大学 研究院 准教授	佐藤 裕弥	欠席
〃	盛岡ガス株式会社 常務取締役総務部長	松川 顕	
企業局	局長	藤澤 敦子	
〃	次長兼経営総務室長	菊池 満	
〃	技師長	朝岡 薫	
〃 (経営総務室)	管理課長	高橋 啓二 (小原 彰浩)	欠席 (代理)
〃	予算経理担当課長	佐藤 卓也 (上路 孝志)	欠席 (代理)
〃 (業務課)	総括課長	野崎 裕	
〃	事業担当課長	小野寺 重男	
〃	電気課長	村上 敏弘	
〃	土木・施設担当課長	菊池 晋	
〃 (施設総合管理所)	施設総合管理所長	細川 普基	
〃 (県南施設管理所)	県南施設管理所長	川村 陽一	
事務局	経営総務室 経営企画課長	菅原 克浩	
〃	経営総務室 経営企画担当 主任主査	赤岩 正昭	
〃	経営総務室 経営企画担当 主任主査	高橋 浩	
〃	経営総務室 経営企画担当 主任	伊藤 友一	
〃	経営総務室 経営企画担当 主事	小山 勝矢	

(委員 50 音順 敬称略)

(発言者)

(発言内容)

【 1 開 会 】

菊池次長

ただいまより、平成 30 年度第 1 回目の岩手県企業局経営評価委員会を開催させていただきます。本日暫時進行役を務めさせていただきます、菊池と申します。どうぞよろしく申し上げます。

開会に先立ちまして、今年度の定期人事異動による新任職員の紹介をさせていただきます。次第の裏面の出席者名簿をご覧ください。

まず、局長の藤澤 敦子です。

次に、技師長の朝岡 薫です。

次に、業務課総括課長の野崎 裕です。

次に、経営総務室経営企画課長の菅原 克浩です。

次に、経営総務室管理課長の高橋 啓三でございますが、本日別件により欠席のため、代理の小原 彰浩です。

次に、経営総務室予算経理課長の佐藤 卓也でございますが、本日別件により欠席のため、代理の上路 孝志です。

次に、業務課事業担当課長の小野寺 重男です。

次に、施設総合管理所長の細川 普基です。

次に、県南施設管理所長の川村 陽一です。

以上、9 名が新任でございます。どうぞよろしくお願いいたしします。

委員のみなさまは既にご存知かと思えますけれども、本日の企業局経営評価委員会は原則公開として開催しておりまして、ホームページでも掲載していますのでどうぞよろしくお願いいたしします。それではお手元の次第に沿って進行していきます。開会にあたり局長の藤澤から御挨拶申し上げます。

【 2 あいさつ 】

藤澤局長

改めまして、企業局長の藤澤でございます。今年の 4 月、局長を拝命いたしました。昨年度は商工労働観光部の方におりました。どうぞよろしくお願いいたしします。

さっそくではございますが、企業局の平成 29 年度の決算概要につきましては、去る 6 月 4 日に公表させていただいたところでございます。電気事業それから工業用水事業につきましては、おかげさまで経常利益、そして純利益共に黒字を計上しております。

電気事業につきましては、今年の元旦に一戸町の高森高原風力発電所の運転を稼働しておりまして、概ね順調に稼働しているところでございます。企業局としては 19 番目の発電所となります。その出力につきましては、風力発電所としては全国の公営電気事業者が運営する中では最大規模となっているところで、11 基の風車で 25,300kW でございます。

それから、工業用水道事業につきましては、昨日新聞の方にも掲載されておりましたけれども、東芝メモリの新工場の建設を受けまして、対応に取り組んでいるところでございます。新聞に掲載されたと申しましたのは、一昨日、県の政策評価委員会によります今年度第一回目の大規模事業評価専門委員会というものがございまして、その中で企業局から新浄水場整備について諮問したということで、まだ審議の途中というところでございます。ただ、企業局といたしましても県全体の大事業でございますので、本県の産業振興を将来に渡って支えるべく、力を入れているところでございます。

さて、本日の議題でございますが、平成 29 年度の取組み評価と今年度の第一次四半期の取組み状況等でございます。我々を取り巻く社会、経済情勢は日々変化しておりますけれども、委員の皆様におかれましては、様々な視点からご意見等を賜り、ご審議をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

菊池次長

本日、佐藤裕弥委員におかれましては、都合によりまして欠席することで連絡いただいておりますので御了承願います。

それでは議事に入りたいと存じます。以降の議事進行は、評価委員長である郷委員長によりしくお願いいたします。

郷委員長

本日は、委員の先生方、企業局の幹部の方、よろしくお願いいたします。議事進行をさせていただきます。

本日の内容ですが、議事に入る前に事務局から決算概要、及び平成 30 年度の経営目標について報告があります。その後、本日の議事となりますので、よろしくお願いいたします。

平成 29 年度の取組評価は、昨年度末に暫定評価をしたものですが、年度実績がまとまったということで改めて評価したいと思います。

また、平成 30 年度の第 1 四半期の取組状況につきましては、平成 29 年度の取組状況を踏まえて経営目標などを見直して取り組んでいるということで、第 1 四半期までの取組みの報告となります。事務局から配布されたタイムスケジュールに沿って進めてまいりますので、議事進行に御協力をお願いします。

それでは、報告事項について事務局から説明をお願いします。

【 3 報告事項 】

3 報告事項

事務局より、下記資料に基づき、「(1)平成 29 年度決算概要」、「(2)第 5 次中期経営計画の評価方法について」について、2 件まとめて報告を行った。

参考資料 1 平成 29 年度決算概要

参考資料 2 第 5 次中期経営計画の評価方法について

郷委員長 ありがとうございました。ただいまの説明について御質問・御意見ありましたらお願いします。

それでは私からですが、1 ページ目の出水率の増加により、電力量が増加したというのは、今までの実績から出水率はどのくらいの幅があるものなのでしょうか。

村上電気課長 出水率につきましては、その年毎に雨の降り方が大きく異なり、最近特に変動が激しいということもございます。

過去に、渇水で電気が十分に発電できないということもございましたけれども、最近は雨の方は十分に降っており、割と出水率が高めの方をキープしていると感じております。

郷委員長 ありがとうございました。ほかにありますでしょうか。

松川委員 電気事業・工業用水事業共に経常利益、純利益共に前年比増ということで、これは企業局の皆様のご尽力の賜物で、すばらしい結果だと思います。

その中で 2 点ほど確認したいのですけれども、一つは今、郷委員長からもありました通り、出水の増によって供給量が増えるというのは、分かるのですが、それと必ずしも収入がリンクしていないというのはやはり東北電力からの需要などで若干ずれが生じているのかということが一つ。

また、費用のところ、電気事業につきましては、人事異動の変更で人件費増、工業用水は同じく人事異動で構成が変わって、こちらは人件費が減になると記載がありますが、29 年度第 1 回経営評価委員会ときは、外部監査からの指摘で本局の人件費 3 名分を電気から工業用水に分けたため、電気では 3,000 万円ほど減になって、工業用水では 3,000 万円ほど増になったと聞いています。

それがそのまま継続されていることかと思えますけれども、その確認と、前回東芝メモリの件で工業用水の人件費が人員構成が変わって増えるという話があったと思うのですが、それを踏まえての減はどういうことなのか確認させていただきたい。

村上電気課長 出水率につきましては、確かに収入というのは完全に一致するものではございません。出水率が良くても雨の降り方もございます。一回に多く降られても発電できる量は決まっておりますので、そういった面で必ずしもリンクしないということです。

もう一つ、我々は水力は東北電力と売電契約をしていますけれども、二部料金制というものを採用しておりまして、8 割については発電してもしなくても必ず固定費としていただき、残り 2 割については従量制でいただくということになりますので、そういった意味で完全には同じパーセントにはならないということになります。

菊池次長 もう一つの人件費の関係でございます。昨年度、28 年度決算でお話したとおり、包括外部監査の関係で電気事業会計から工業用水事業へ 3 名移したというのは 29 年度も変わりません。

それに加えて、電気事業会計につきましては、年齢構成が高くなったということで、それに伴い給与費も高くなります。また、退職給付金の繰入金も増になり、この関係で電気事業会計は増えています。工業用水は逆に若返りでございます。若返りの関係で給与費、人件費等が減っているということでございます。

郷委員長 ありがとうございます。ほかにありますでしょうか。

金子委員 電気事業会計の方なのですけれども、電力の供給状況の風力を見ますと、稲庭高原の方は 3 号機の故障で減になったけれども、高森の発電所が 1 月から運転開始したことにより増となっているので、確かに前年に比較すれば、当然、前年比でプラスになるのですが、風力のそもそもの計画値との関係はどうだったのでしょうか。

高森の方が計画以上なのか、稲庭の方が 3 号機の故障で減ったけどカバーして、計画より超えているのかということをお聞きしたい。というのは前年との比較では新しく高森が稼働しているので、比較にならないと思います。

高森風力の稼働率というのは、私たちが伺ったときも冬場で非常に風が強くて、工事大変だと伺っているので、稼働率が計画よりもいいのかというあたりもお聞きしたいと思います。

村上電気課長 稲庭は故障が発生しまして、稼働率が少し悪いという状況ですけれども、出力が稲庭の場合は 1 基 660kW、高森の場合は 1 基 2,300kW とかなり規模が違う風車になっております。その関係で発電できる量もかなり違うということで、一概に比較できないということでございます。

高森につきましては、昨年度の運転実績（今年 1 月～3 月）で、大体 120 パーセントを超える達成率ということで、昨年度は順調に運転しているということでございます。一方、稲庭の方は 80 パーセントを少し越しているということで少し低迷しているということでございます。

また、30 年度におきましても高森につきましては、100 パーセント近い達成率を達しているという状況でございます。

金子委員 トータルすると風力は計画を越しているのかということをお聞きしたい。

村上電気課長 トータル的には風力の方は、昨年度は 114 パーセント程度ということで電力量の方は達成しているということでございます。

金子委員 前年比しかないなので、計画値が分かりません。

村上電気課長 資料 2 には計画値がございますので、そちらでご説明させていただいてもよろしいでしょうか。

金子委員 それでは、あとで。

郷委員長 ほかにありますでしょうか。

泉委員 初歩的な質問なのですが、工業用水の給水停止日数の減に伴う基本使用水量の増により、というのが一読しただけでは分からなかったので説明をお願いします。

小野寺事業担当課長 工業用水道の料金をいただく仕組みでございますが、基本的にユーザー企業とこのぐらい使いますという水量をまず契約して頂きます。その契約頂いた数量を基本とし、1立方メートルあたりの給水単価 42 円を基本契約水量に掛けて、かつ実際に使って頂いた水量に 3 円を掛けて、その金額を料金としていただいております。

ただし、こちら側の都合で給水ができない場合、例えば設備のトラブルを直すために、給水を止めなければならないような事態があった場合には、その止めた時間について、基本使用水量を算定する契約水量から控除させていただきます。

ここに記載してある中身というのは、その給水停止をしなければならないような事態が 28 年度よりも 29 年度は少なくなったので、それに伴って基本使用水量が増えたということでございます。

泉委員 ありがとうございます。

郷委員長 ほかによろしいでしょうか。

【 4 議事 】

郷委員長 それではつぎの議題にうつります。「平成 29 年度の取組評価」の審議に入ります。先ほどお話したとおり、前回、実績見込を基に暫定評価をしていましたので、それから変更点がありましたら、その点を中心に説明をお願いします。

また、評価は電気事業、工業用水道事業、共通的事項の 3 つに分けて行ってまいります。それでは電気事業の方から説明願います。

(1) 平成 29 年度の取組評価について

経営総務室 菅原経営企画課長が下記資料を用い、平成 29 年度の取組評価（案）について説明。最初に電気事業から説明を行った。

資料 1 平成 29 年度 評価の総括（案）

資料 2 平成 29 年度 経営評価総括表 (案)

資料 3 平成 29 年度 行動計画取組状況一覧表

郷委員長 ありがとうございます。ただ今の電気事業の説明について、御質問・御意見等ありますでしょうか。

3 ページ目の電気事業の信頼性の確保、行動計画の一部の工事について、河川管理者との協議の結果、施工方法の大幅な変更と記載があります、これがどんな変更なのでしょう。

また、今後の経営に関して、大きな影響を与えるようなことなのでしょう、もしくはテンポラリーなものなのでしょう。

野崎業務課総括課長 河川管理者との協議の結果、施工方法の大幅な変更が確定したということでございますけれども、水力発電所の取水堰堤で大規模な補修工事を計画しておりました。その方法につきまして、河川管理者と協議しましたところ、様々な条件が出て参りましたので、大変ハードルの高い設計をせざるを得なくなったため、当初の計画を見直しております。

郷委員長 環境に対する配慮等でしょうか。

野崎業務課総括課長 そうです。あとは洪水のときの安全対策でございます。

それに対する今後の対策、対応でございますけれども、こういった大規模な工事の改修につきましては、通常ですと 1 年前に協議を始めて、事前相談をしてから翌年度、協議、そして施工に入るという流れでございましたけれども、それをもっと早く事前協議を始めるということで、2 年もしくは 3 年前倒しして協議を開始して、できるだけ詳細な中身について、早め早めに決定していくということで対応を図っております。

郷委員長 将来的にハードルが高くなるということは、費用の方も嵩むということですね。

野崎業務課総括課長 はい、十分考えられることでございます。

朝岡技師長 補足させていただいてもよろしいでしょうか。

今の件ですが、最近、大雨で河川が洪水になるというケースが増えておりました、河川管理者の方でも、例えば私たちが取水堰堤のコンクリートが荒れているところを補修する、そういった行為をすることによって、もし大雨が降ったときに仮設物が下流に流れて、悪い影響を与えることを大変危惧しております。

そのため、最近の雨の降り方による河川管理者の危機管理の強化という観点から、様々ご指導を頂いているものと思っております。具体的には 9 月ま

で台風などがありますので、10月以降でないとい工事の実施許可を出せないということがございました。

しかしながら、八幡平の山中の北ノ又発電所ですと、大体11月を過ぎますと雪が降るので、実質工期的には1か月半とか2か月しか取れないということになります。そういった短い中で、どういう方法で工事を完成させるかというところで、こういった大幅な変更がでたという経緯がございます。

菅原経営企画
課長

追加の説明をさせていただきたいと思います。先ほど、報告のところでご質問ございました風力の実績について説明したいと思います。

資料2の4ページをお開きいただきたいと思います。こちらの参考のすぐ下に供給電力量電源別内訳という表がございます。これに風力の欄がございます。

こちらにございますように第4四半期に風力の実績値がぐっと増えているというような状況がございます。第1四半期から第3四半期までは、これは稲庭高原の実績値になりまして、達成率も71パーセントから81パーセントというような推移をしておりました。

これに対して第4四半期では、1月から高森高原が稼働を始めまして、一気に実績値が増加しております。達成率におきましても、122.8パーセントというふうに大きく伸びておりまして、先ほど説明をさせていただきましたようにトータルで114パーセントの達成率になっております。

金子委員

実態はわかったのですが、そうするとそもそも稲庭高原は、3ページのように風車の制御装置とか電力変換装置の異常で達成率が下がったと書いてあるのですが、その要因だけでは無いということでしょうか。

今のご説明では第1四半期から第3四半期まで、計画に対して71パーセントとか78パーセントとか、計画に対して8割弱ぐらいが実態で、最初の説明のように1基の発電量が高森とは全然レベルが違うという話ですが、稲庭高原では計画と乖離があるという気がします。

稲庭高原ではそもそも計画が高かったのか、風の具合によってこのぐらいの変動はあるものなのか、どうなのでしょう。

村上電気課長

風速は計画したとおりのことなのですが、平均風速ということで、発電に適した風であったかどうかで違う評価もございます。

また、昨年度は故障が多く3基合計で延べ200日という実態になっております。3号機だけの故障ではなくて、2号機、1号機共に電気関係の機器故障が発生した関係もあって稼働率が低かったということもございます。

金子委員

その故障は直ったということなのでしょう、まだなのでしょう。

村上電気課長

故障が発生した都度、復旧を進めておりますが、どうしても似たような故障が頻発しているところでありまして、その辺は製作メーカーと再発防止に努

めています。

郷委員長 ほかによろしいでしょうか。

松川委員 資料 2 の電気事業の関係で、1 つは 1 ページの集中監視制御システムの改修、同時同量制度の導入で、これまで 1 時間単位で調整・計画でよかったものが 30 分単位になるので、そのための集中監視制御システムの改修を実施しますとなって、達成状況等には 30 分単位の計画値で集中監視制御システムの改修を実施しましたとあるのですが、上の方の経営目標は実績には線が入っていて、実施されたとは見てとれない。ここの 3 つの整合性はどうなっているかということをお聞きしたい。

また、いわて復興パワーで、3 月末に 383 件、前回 2 月の時は 200 件ということで、これは補助金を受けている方にダイレクトメールを送って、その成果ということによろしいのかということ。

もう一点、いわて復興パワーに関してですが、まず補助に該当するのが高圧であることと、補助金を何か受けているというこの 2 つなのですが、弊社で 2 月か 3 月頃に東北電力から特別料金割引メニューでお得意様割引の提案ということで、1 年目が 1 パーセントと 2 年目が 2 パーセント、3 年目以降が 3 パーセント割引になりますということで案内がありました。自由化後、東北電力からの切り替え等があり、それを止めるということの一つのセールスだと思います。弊社は当然、申込みをして割引を受けているのですが、こういうものを受けて、さらにいわて復興パワーを申請できるのかをお聞きしたい。

村上電気課長 まずシステムの改修についてであります。昨年度取り組んだのは、現在どのような計画値と実績値に乖離があるかというところを把握するための改修を実施いたしました。具体的には、帳票で数字が出てくるようにして、いわゆるインバランスがどのくらい発生しているのか目に見えて分かるようにデータを収集するための改修を行っております。今後、それらのデータを基にどういう対応ができるのかというところを検討したうえで、システムの方の本格的な改修の必要性というのを検討していくことにしております。

松川委員 細かい内容はよろしいかと思うのですが、達成状況等を見ると集中監視制御システムの改修を実施しましたとあるので、これは一部実施しましたとかそういう表現の方がいいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

村上電気課長 その通りだと思います。

菅原経営企画課長 いわて復興パワーの関係でございます。まず、一つ目のダイレクトメールの効果ですが、おっしゃる通りダイレクトメールの反応がよく、3 月末時点では 383 件ですが、その後も少し伸びたという実績がございます。

それと 2 つ目でございますが、いわて復興パワーの補助対象は、東北電力との契約が高圧電力での契約者と決まっております、そのメニューでご契約のお客様に限って、復興パワーの適応を受けることが可能でございます。

ご案内いただいたものについては、特別メニューということであれば重複して受けるということは難しいと思います。

松川委員 このお得意様割引というのは弊社は電力の契約が 6 つありまして、高圧の S が 4 つと業務用が 2 つで、すべてに割引が適応という案内がありました。6 つの契約で年間 1,500 万円ぐらいの電力料金なので、民間でもそのぐらいの工場などはあるのかなと思います。

高橋主任主査 標準であれば大丈夫なのですが、細かいことを言いますと、高圧 S の下に II とか数字が入っている場合が特別メニューにあたりまして、その場合は該当いたしません。

松川委員 この募集要項の中にもその辺の説明はあるということではよろしいのでしょうか。

高橋主任主査 募集要項にも対象のメニューである高圧 S とか時間帯別とかの対象 7 メニューの名前は書いてあります。

松川委員 こういうものを受けていると難しいですよということは特にここには、記載はないのでしょうか。

高橋主任主査 その通りです。対象のメニューのみ記載しております。

郷委員長 ほかによろしいでしょうか。

金子委員 今 383 件プラス α ということですがけれども、これは 1 億 3 千万円という枠での縛りがあるのでしょうか。それともまだゆとりがあるのでしょうか。

菊池次長 枠につきましては、企業局の発電量に相当する分ということになりますので、今の割合からいたしますと、だいたい 41.6 パーセントということで、まだ量からすると余裕があるという形にはなります。金額の縛りとか件数の縛りはございません。あくまでも企業局が発電している電力量の範囲内ということになります。

金子委員 電力量としては、あとどれくらいゆとりがあるのでしょうか。

菅原経営企画課長 全体の私どもが供給している電力量すべてをお使いになるという形になりますと、およそ全体で 4 億円ぐらいの低減効果が期待できると見込んでお

ります。まだ、そのうち半分弱ぐらいという状況でございます。

菊池次長

いわて復興パワーの他県と違う部分というのが、震災復興・ふるさと振興ということでございます。補助金を受けている企業さんに対して、プラスして支援をするという仕組みにしていますので、他県ではすべての中小企業さんを対象にしているという仕組みでございますが、岩手県の場合はあくまでも震災復興・ふるさと振興を後押しするというところの名目がございますので、その辺が他県と違う部分になっております。

郷委員長

ほかによろしいでしょうか。

(1) 平成 29 年度の取組評価について（工業用水道事業）

資料 2 平成 29 年度 経営評価総括表（案）

資料 3 平成 29 年度 行動計画取組状況一覧表

郷委員長

ありがとうございました。ただいまの工業用水道事業の説明について、御質問・御意見あればお願いします。

それでは私から、工業用水道事業の方はアセットマネジメント計画を 29 年度に策定したということですが、電気事業の方はアセットマネジメント計画を策定されているのでしょうか。

菅原経営企画
課長

電気事業につきましては、アセットマネジメント計画というのは、作成しておりません。今の段階で、今後いつ作るというような計画もしておりません。

朝岡技師長

補足説明させていただきますが、私たち電気事業では、比較的直営で機器の点検等をやっております。例えば外部委託して機器の点検をするのとは違いまして、機器の状態を職員がよく把握しているという状態にあります。

従いまして、外注しなくても私たちの方の知識の中で長期計画を立てておりますので、当面は工業用水のように外注してアセットマネジメント計画を立てる予定は無いというところでございます。

郷委員長

分かりました。

ほかには何かありますでしょうか。

(1) 平成 29 年度の取組評価について（共通的事項）

資料 2 平成 29 年度 経営評価総括表（案）

資料 3 平成 29 年度 行動計画取組状況一覧表

郷委員長

ありがとうございました。ただいまの共通的事項の説明について御意見・御質問あればお願いします。

泉委員 資料 2 の 10 ページで、職員満足度調査というのがありますが、何か特筆すべき内容など分析されていたらお聞きしたい。

菊池次長 今回の職員満足度調査における特徴的なところが、職場において幹部職員または課長職の職員がしっかりとしたマネジメントを行って、組織の風通しの良い組織を作ってほしい、というマネジメント力を強化して、組織力を高めてほしいという結果でした。

それを踏まえて、30 年度の取組みでもございますけれども、その管理者の研修を増やしました。そして、マネジメントを強化するという取組みも強化していきたいという特徴がございます。

郷委員長 その下の長期経営方針の策定にあたっては、他県等から情報収集とあるのですが、他県とはどの辺を狙ってやられたのでしょうか。

菅原経営企画課長 昨年度末の段階におかれましては、まだ 2 県程しか作っているところがなく、山形と大分県については部分的に公表されておりますので、そういったようなところは参考にさせていただきました。

郷委員長 ほかにございますか。

それでは先ほど松川委員の方から、監視制御システムの改修について、コメントがありまして、その辺の修正はやっていただき、それでまとめにしたいと思いますが、他によろしいでしょうか。

それでは修正方よろしくお願いいたします。

(2) 平成 30 年度の第 1 四半期取組状況について

経営総務室 菅原経営企画課長が下記資料を用い、平成 30 年度の第 1 四半期の取組状況(案)について説明。電気事業から説明を行った。

資料 4 平成 30 年度 経営評価総括表(第 1 四半期)(案)

資料 5 平成 30 年度 行動計画取組状況一覧表(第 1 四半期)(案)

資料 6 平成 30 年度 行動計画取組状況一覧(第 1 四半期)(案)

郷委員長 ありがとうございます。ただいまの説明について御質問・御意見ありませんでしょうか。

松川委員 3 ページ目の達成状況で、第 1 四半期 6 月末ではなく、ここにあるもの全て 5 月末ということによろしいでしょうか。

菅原経営企画課長 申し訳ございません。これは記載間違いでございまして、達成状況につきましては 6 月末の達成状況になります。

もう 1 つ訂正がございまして、3 ページの右上に参考指標がございます。発電所の利用可能率が、高森高原風力は 5 月末で 98 パーセントと記載があ

- りますが、6 月末の数値は 96 パーセントでございます。
- 郷委員長 ほかにございませんか。
- 松川委員 3 ページの達成状況で風力発電の達成率が 101.1 パーセントということ
でありますけれども、これも分母はどうなるのでしょうか。風力は高森の運
転開始が今年の 1 月ですよね。
供給電力量達成率は、101.1 パーセントということなのですが、こちらは
分母は何になるのでしょうか。
- 村上電気課長 分母の関係ですけれども、4 ページの左上の電源別内訳で、風力の
13,528kWh が目標値で、13,666 kWh が実績値でございます。
- 菅原経営企画
課長 目標値が分母ということです。
- 松川委員 目標値は、高森が動いていると仮定すればということでしょうか。
- 村上電気課長 実際、高森は 1 月から動いておりますので、こちらには高森も入っており
ます。
- 松川委員 昨年実績との比較ということでないということですね。
- 村上電気課長 その通りです。
- 松川委員 わかりました。
- 金子委員 3 ページの風力発電所の利用可能率は、稼働率ということによろしいので
しょうか。あと指標が目標としているので、稲庭は 89 パーセントの指標で
84 パーセントの実績ということだから、指標よりは下がっているという見
方でよろしいですか。
- 村上電気課長 ええ、その通りでございます。実際に運転できる時間の割合が 84 パーセ
ント近くだったということです。高森につきましては、95 パーセントとい
うのは、据え付けメーカーへ委託しておりますので、95 パーセントを下回っ
た場合は、補償するということで契約しておりますので、高森の場合は 95
パーセントという非常に高い指標になっています。稲庭の方は、実績が悪い
ということもありますので、それを加味して 89 パーセントという目標にし
てございます。
- 郷委員長 可能率と稼働率の違いは何でしょうか。
- 村上電気課長 可能率と稼働率は同じ意味でございます。

郷委員長 ほかにありますでしょうか。

開発の件で、3 地点の流量を測って決めるということですが、3 地点は有力なのでしょうか。

菊池土木・施設担当課長 観測をしている 3 地点が有力かということですが、ある程度、今後開発の見込みがあるということで、データを集めるために有力な場所として観測しています。

郷委員長 やはり山奥なののでしょうか。

菊池土木・施設担当課長 水力の開発もかなり進んできておりまして、奥地でございます。条件的には厳しいですが、新規水力開発ということで観測しています。

郷委員長 ありがとうございます。ほかによろしいのでしょうか。

泉委員 6 ページに稲庭高原風力発電所の再開発の可能性について、資料 2 の方には概略調査で再開発が経済性の確保が困難という結果が出ていますが、引き続きもう少し検討してみるということなのか、具体的に教えていただければと思います。

村上電気課長 稲庭高原風力発電所の再開発の概略調査ですが、昨年度コンサルに委託し、概略検討を行いました。その結果、経済性がかなり厳しいという結果でしたので、今年度は引き続き経済性について検討することとしています。

1 つは建設費の圧縮ができないかということで、風車の据え付けメーカーと直接やりとりして見積もりを頂くということに取組んでおります。

もう 1 つは収入を増加できないかというところを検討しております。

泉委員 立地そのものが向いていないということではないのでしょうか。

村上電気課長 風況は非常に良い場所でありまして、風力発電には適した場所になっております。

泉委員 ポテンシャルはあるけど、どうやったら収益的に経済的にできるかということですね。

村上電気課長 現在は 3 基で 1,980kW なのですが、今考えているのはそれを 1 基にすることです。現在は 2,000kW 級の風車が主流となっていますので、3 台を 1 台にまとめるということなのですが、やはりスケールメリットとして 10 基建て

るのと 1 基建てるのではかなり経費が違いますので、その辺をクリアできないかと考えております。

郷委員長 地元には稲庭風力を残してほしい方がいるのですか。

村上電気課長 地元の方から、企業局でこのまま継続できないかという話がございますので、それらを加味して検討しているところでございます。

朝岡技師長 補足させていただいてよろしいでしょうか。稲庭の再開発は、やはり FIT、固定価格買取制度の活用を考えておまして、その買取価格が下がってきているため、経済性の方に影響してきておりますので、そういったところを踏まえまして、さらに精度の高い検討をして、工事費が実際いくらかかるかという検討してまいりまして、再開発について引き続き前向きに取り組んで参りたいと考えております。

泉委員 ありがとうございます。

郷委員長 ほかにありませんか。では工業用水の方をよろしく申し上げます。

(2) 平成 30 年度の第 1 四半期取組状況について（工業用水道事業）

資料 4 平成 30 年度 経営評価総括表（第 1 四半期）（案）

資料 5 平成 30 年度 行動計画取組状況一覧表（第 1 四半期）（案）

資料 6 平成 30 年度 行動計画取組状況一覧（第 1 四半期）（案）

郷委員長 ありがとうございます。ただいまの説明に対して、御質問・御意見ございましたらお願いします。

郷委員長 それでは私からですが、7 ページ目の今後の課題取り組みで、耐用年数を 40 年経ったものと 60 年、70 年というアセットマネジメント計画に従って、見直すということなのですが、これはメーカー保証ではないですね。

野崎業課総括課長 メーカー保証ではございません。第二工水の送水管では、普通の JIS 規格の鋼管を用いておりますが、実際の使用年数につきましては、もう既に 40 年以上経過しておりますけれども、10 年以上前に電気防食の装置を設置しまして、その電気防食を設置する前は年間で 3 回か 4 回、漏水事故が発生して給水停止があったのですが、その電気防食装置を付けてからそういったケースが全くなくなったので、そういったことを加味して、実際の使用年数としては、このくらいの年数は期待できるのではないかと考えております。

郷委員長 わかりました。この管の耐震化はどうなるのですか。

野崎業務課総括課長 耐震化につきましては、全線約 10km ございますけれども、部分的なところで、すべての管の工事がまだ実施されてはおりません。けれども、特に屈曲している部分とかそういったところを中心に、可とう性を持つ管に変えるなどして、耐震化性能を向上させているという状況でございます。

郷委員長 ほかよろしいですか。次の共通事項のところよろしくをお願いします。

(2) 平成 30 年度の第 1 四半期取組状況について（共通的事項）

資料 4 平成 30 年度 経営評価総括表（第 1 四半期）（案）

資料 5 平成 30 年度 行動計画取組状況一覧表（第 1 四半期）（案）

郷委員長 ありがとうございます。ただいまの共通的事項の説明に対して、御質問・御意見ありましたらお願いします。

松川委員 9 ページで植樹活動の申請件数が少ないことから 2 次募集すると記載されておりますけれども、ホームページ以外でこの 2 次募集を募るのはどういうところで为什么呢。

菅原経営企画課長 植樹支援活動の関係でございますが、ホームページ以外では、過去に私どもこういった支援をご利用いただいた市町村を中心に直接連絡しております。もちろんホームページ等で広く募集をかけることもございますけれども、様子や状況を見ながら、後 2 件ではございますけれども、目標達成できるように努めて参りたいと思います。

郷委員長 特定課題検討グループというものが何回か出てくるのですが、これはどのような年齢構成なのでしょう。

菅原経営企画課長 検討グループにつきましては、主に主査クラスを中心に構成をしております。概ね 30 代後半から 40 代といったところが中心となっております。

郷委員長 人数は 5、6 名ですか。

菅原経営企画課長 特定課題検討グループは 2 つ立ち上げてございまして、それぞれ 7、8 名程度です。

郷委員長 分かりました。他ございますか。

郷委員長 なければ、ご意見は頂戴いたしましたので、参考にいただき、取り組みを進めていただければと思います。

それでは（3）その他の方に移ります。まず、事務局の方から次期長期経

営方針の検討の状況をご説明いただきたいと思います。

4 その他

次期長期経営方針の検討状況について

参考資料 4 次期長期経営方針 策定スケジュール

参考資料 5 次期長期経営方針の策定について

参考資料 6 岩手県企業局次期長期経営方針（素案）

郷委員長 ありがとうございます。ただいまの次期長期経営方針の検討状況について何かご意見あれば、お願いいたします。

運転年数 100 年という表現があるのですが、やはり先程ご説明のあった電気防食など、寿命を長くするようなことをやられているので、若干安心しております。

ただし、設備産業で、例えば今は使えているからずっと使い続けようというようにも聞こえて、少し危うい感じがしています。

よって表現にもう少し説得力があるような背景があるといいと思いますので、それについてお聞きしたい。

水力発電所の件でももう少し耐用年数を長くしたいというように、先ほどの工業用水にも同じ話があったので、何かコメントいただければと思います。

野崎業務課総括課長 おっしゃるとおり、運転年数 100 年というのは非常に抽象的な表現であります。今、私どもで具体的に検討しておりますのは、先ほどの特定課題検討グループの中で、水車発電機のオーバーホールの周期を長くして、収支をより良くしようということと、胆沢第二発電所は運転開始から 60 年経過しておりますので、電気設備と土木設備をどうしようかというところについて、検討グループを今年度立ち上げたところでございます。

他の発電所全部には、十分な考え方が行き渡って無いですが、まずは胆沢第二から土木施設の補修や電気設備機器をより効率のいい機械に替えていかなければならないというところの検討を進めていくところでございます。

郷委員長 一昔前、機器の寿命診断が流行った時期があったと思うのですが、今はそういったことに取組まれているのでしょうか。もしくは計画はあるのでしょうか。

野崎業務課総括課長 これまでのオーバーホールで特に 50 年を越した発電所につきましては、例えば水車、発電機のような強度を必要とする構造物の部分につきましては、非破壊検査を行って、現在の余寿命はどうか、あるいは補修が必要なのかという検査をオーバーホールの都度行うようにしております。なお、現在のところ機械が壊れた例はございません。

- 郷委員長 昔の機械は安全率が高いということもかなり大きいかもしれないですね。
- 野崎業務課総括課長 実際どこまで使えるのかは、これから考えていかなければならない課題だと考えております。
- 郷委員長 ほかに何かありますか。
- 泉委員 情報提供なのですが、6 月 24 日にアイーナで開かれた世界首長誓約 in 岩手というシンポジウムに参加したのですが、そちらの内容がすごく企業局の行っていることと重複しておりました。
- 世界的にこれから再エネの重要性が高まっていくでしょうし、まずは地域の方が足元からそういったことを考えてほしいと思うので、県の関係部局の方も参加していたとは思いますが、企業局の取組内容そのままだと思ったので、お伝えしたいと思って発言させていただきました。
- もう 1 つ、大学の授業で環境部局の方に講義をしていただいたのですが、その時に 10 分間ぐらいの DVD を上映していただいて、環境生活の紹介の DVD でしたが、最後のところに企業局の補助が使われていますというテロップが出ておりました。
- このようにして県政にいろいろ貢献してくださっていることが分かり、委員としてのモチベーションが上がり、とてもうれしかったのでお伝えします。
- 自分のやっていることが世界と繋がっているということが分かるいい講演会でした。環境省や WWF（世界自然保護基金）の方も来ていました。
- 郷委員長 もし、よろしければ、資料を取り寄せてみてください。
- 菊池次長 資料を取り寄せます。
- 郷委員長 ほかにありますか。
- 私の方から、工業用水道事業に限りませんが、ユーザー企業との良好な関係性を維持・発展させていくということで、例えば協議会などで連絡を取りながら決めていこうということだと思っておりますが、例えば局商工労働観光部などと直接関係することが多いと思うのですが、その辺の連携などは何か考えているのでしょうか。
- 藤澤局長 商工労働観光部とは、企業誘致を担当している部署と密接に連携を取り合っております。特に、東芝メモリの関係では、一緒に企業を訪問して関係者と話し合っております。
- 郷委員長 他にありますか。

それでは、(3) その他で委員の方から何かあればお願いします。

松川委員 資料 3 の 3 ページの未利用資産の活用・処分で、旧愛宕荘跡地の売却を随契へ移行し宅地建物取引協会等へ依頼したけれど希望者がいなかったということで、弊社の場合、土地の売買は、大体一番情報持っている銀行に頼んでおりますが、公営企業だから難しいのかもしれないけれども、何かうまい方法はないのかということと、旧愛宕荘というのはどこにあるんでしょうか。

上路主査 まず、場所からですけれども、胆沢第二発電所の近くで奥州市の胆沢区若柳にあります。7 千㎡ぐらいあるサッカー場を一面作れるような土地の広さですが、隣の小学校は全校で 50 名程度で、半分を分譲してもなかなか希望者もなく、こちらも何とか売りたいと 3 年ぐらい頑張っているところではございますけれども、そういった立地条件でして今なお未利用資産という扱いになっています。

松川委員 もっと街の中かと思っておりました。

もう 1 つよろしいですか。地域貢献のところで温室効果ガスの削減で植樹等をしているわけですが、水力、風力、太陽光発電は火力発電等と違って、CO2 が出ないということについて、ホームページで少し出ているだけなので、もっと色々なところで訴えていってよろしいのではないのかなと思います。

弊社も原料をプロパンガスから LNG に平成 27 年に切替えまして、それほどのぐらい CO2 が減ったのか、プロパンベースのガスをお使いになって排気ができるのと今ではどれぐらい違うのか、というのを具体的に分かるように、目に見える形で PR したことがあったものですから、何かそういうことをされてみてもよろしいのではないのでしょうか。

火力だったらこれくらいだけど、企業局でやっている水力や風力だとこのぐらいですよということを目に見えるようにした方がいいのではないのかなということです。やるのは手間がかかるかもしれないですが、そういうことでもっと PR してもよろしいのではないのでしょうか。

最後に LINE スタンプですが、LINE ポイントでスタンプを取ろうとすると、実際にお金が入らないので、企業局に収益が入らないでしょうから、LINE スタンプをとるときは、LINE ポイントではなく実際にお金を支払ってほしいということお話した方がいいのかなと思います。以上です。

菊池次長 先ほどの CO2 の関係は、今のアドバイスをいただきまして検討していきたいと思います。

菅原経営企画課長 LINE スタンプについては、何かお知らせするようなところに、注意書きのような形でお知らせさせていただきたいと思います。

郷委員長 よろしくお願いたします。あとその他みなさんの方から、何かございま

せんか。

金子委員 これから経営評価委員会での審議も第 2 回、第 3 回とか入ってくると思うのですが、できれば早期に調整して日程を決めていただけないかなと思います。

他の委員をしていると、どうしても先が決まっていると無理となりますので、できれば 2 回目と 3 回目は一緒に調整をして決めて頂けないかと思います。

菅原経営企画
課長 できるだけ、そのように検討したいと思います。

郷委員長 それではその他何かありますか。事務局の方からもしあれば。

泉委員 岩手県のふるさと納税は、使途が選べるようになっていたと思うのですがけれども、これは何が指定できるのでしょうか。

菅原経営企画
課長 指定をしないでできればと思ったのですが、まだ決めておりませんので、これから検討していきたいと思っているところでございます。

郷委員長 他よろしいでしょうか。では今回用意した議事はすべてであります。議事進行にご協力いただきありがとうございますございました。

菊池次長 長時間に渡りご審議いただき誠にありがとうございました。お疲れ様でした。いただきましたご意見・ご助言につきましては、今後の業務や課題の取り組みに生かしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、今回をもちまして、郷委員長が退任されることになりました。郷委員長からお言葉を頂ければと思います。お願いします。

郷委員長 今日は本当にありがとうございました。2 年間本当にお世話になりました。3 月に一関高専を定年退職なり、やむを得ず東京の方に行きまして、全国 51 高専あるのですが、1 つだけ私立の高専があってその高専で非常勤をしています。

今回、企業局の長期ビジョン案が重要だと再認識しました。これが良くできていると思うのですが、先程松川委員からあったように、自然エネルギーを使って発電していることや、地域に貢献するんだということを明確に書いてあって、企業局では良いことをやっていると思います。その経営に少し参加させていただいて光栄なことだと思いました。

電力の自由化については、結局は自分たちで生きていかなければならないという世界でありながら、それでも理論的には広域連携で今まで 10 か所ぐらいの旧一般電気事業者でやっていたものを、全体で広域的にやろうというように感じております。また、電力自由化では、ピーク対応や予備力について

でも検討されていますが、直接関係あるのが企業局でメインにやっている水力なので、すごく大事だと思っています。

また、水力はクリーンで安定性が高い電源で、すごく大事だということも書かれていますし、保守を自分たちでやっているということですのですごく心強く感じましたので、ぜひ継続して頑張っていたいただければと思います。

もう 1 つだけ最後に言わせていただければと思います。実は最初に、資料 1 の数値を見せて頂いたときに何を思ったかといいますと、大変失礼な言い方をしますと、成り行きの数字を重ねているというように少し見受けられました。

本当は実力をかなり持っていて、オーバーホール等をしっかりと計画通りやっているはずなのに、そこをうまくやっていますとか、少し計画が遅れていますけど、リカバーできますよとか、その辺のところはもう少し入っていると、やっていることの意義というか、意味づけがすごく出てくると思います。

パッと見たらそこがなくて、数値は水が多かったから成績いいですよとか、風が吹いたから成績がいいですよという感じに見受けられて、残念な資料だと思いました。

それだけ意義のあることやおられるので、ぜひ自分たちのやっていることを自分でもっと評価できるような表現をしていただければと思います。

本当に 2 年間ありがとうございました。

菊池次長

郷委員長におかれましては、2 年間評価委員会の舵取りを担っていただきまして、本当にありがとうございました。今後におかれましても、企業局のご支援よろしく願いいたします。では閉会にあたりまして、局長からひとことお願いいたします。

藤澤局長

本日は長時間に渡りまして、熱心にご審議いただきまして、ありがとうございました。本日、様々情報提供いただきましたし、また PR の仕方が局としても課題だと思っております。それに資料の見せ方や分かり易い資料、一読して分かる表現などそういうところは、今後は研究を重ねて精進して参りたいと思います。

また、発電所の再開発ですとか、社会貢献活動、それから大規模施設のメンテナンスや補修・管理につきまして、様々なご意見やご心配を頂きましたので、そういったご意見を踏まえまして、今後の長期計画に反映するよう局内でも益々検討して参りたいと考えております。

それから今年度役員の改選期となりまして、本日の評価委員会が任期の最後の委員会となります。まずは、この 2 年間企業局の経営につきまして、様々なご指導、それからご助言を頂きまして、改めまして感謝を申し上げます。

それから、ただいまご紹介申し上げました郷委員長様につきましては本日をもって退任となるわけではございますけれども、2 年間にわたりまして、この委員会をまとめていただき、様々ご指導いただきまして本当にありがとうございました。改めまして御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

また、委員のみなさまにおかれましては、再任についてご内諾をいただいております。重ねて御礼を申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。簡単ではありますが私からは以上でございます。本日は誠にありがとうございました。

菊池次長

本日は長時間大変ありがとうございました。ただいまをもちまして、平成 30 年度第一回の経営評価委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。